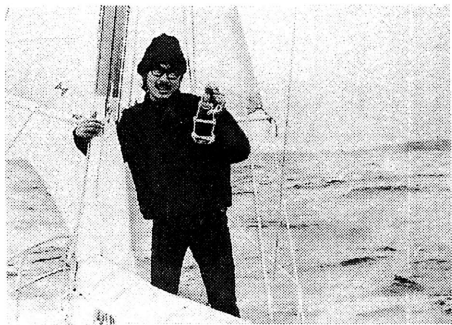


びば?スポーツ

ヨット工房の青木 洋さん



昭和47年、世界一周にチャレした筆者の青木さん。ホーン岬(右後方)を背に記念の海水をくみあげた様子

手づくり「信天翁二世」で世界一周

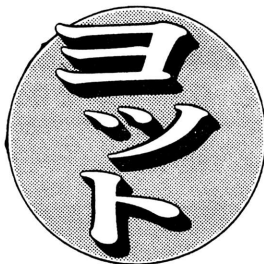
エンジンも無頼ち手づくり、6・2t、幅1.5m、総重量1.7t、774tで完成。5・5t。世界一周に挑戦する。だが、ヨットの破損がひどくて航行を断念した。しかし、

市石津港を出港し、81日間で太平洋洋面を航行成功。また、世界一周の航海に出た。恐怖の岬と呼ばれた南

本最南端のホーン岬を、日本入初めてヨットで通過。再三の船難、クラッシュ、死に直面しながらも、三年二カ月がかりで世界一周を果たし、49年7月26日出港地の石津港へ帰港し、25歳の夏

日本人で、ヨット世界一入初めてヨットで通過。再三の船難、クラッシュ、死に直面しながらも、三年二カ月がかりで世界一周を果たし、49年7月26日出港地の石津港へ帰港し、25歳の夏

「ヨットハーバー」の条件は別件資金が安く、誰かが築き始めること。外園のヨットハーバーのように、国際ヨットマンには無料で開放する。世界中で毎年、五百隻ほどのヨットが世界一周の旅を始めています。でも、わたしのハーバーは冷たいです。三三年前の世界一周を、最初で最後にして、陸へ上がった青木さん。



びば?すぽーつ

十三年前、世界のアドベンチャー史でも前例を見ない手づくりの小船ヨット「信天翁(あほねの)二世」で、単独世界一周の壮業を成し遂げたヨットマンが、いまヨット工房を経営するかたわら、国際ヨットハーバー構想を取り組んでいる。「一人で多くの人が、誰の助けも知らず、知ってほしい」という元ヨットマン、青木洋さん(60)を、泉大津港を訪ねた。

国際ヨットハーバー作りに情熱

海は素晴らしい



現在の青木さんはヨット工房の経営者。国際ヨットハーバーの建設に情熱をかたまけている

一人でも多くの人に安く楽しんでほしい

泉大津港、開港のヨットマンのメッカといわれる西宮ヨットハーバーほどの規模はないが、百隻近いクルーザーがきて、半世紀の自分や、青木さんのヨット工房は、この第一角にある。五人のスタッフととも、ヨットの修理、販売、そして昨年あたりから新しいマリンスポーツとして普及してきている。カヌーの製造に当たっている。

「西宮と比較すると、泉大津は対照的なヨットの風土を持つ土地です。ヨットというイメージがありますが、ここにはお金をかかずにヨットで進んでいる。完成すれば東

「ヨットハーバー」の条件は別件資金が安く、誰かが築き始めること。外園のヨットハーバーのように、国際ヨットマンには無料で開放する。世界中で毎年、五百隻ほどのヨットが世界一周の旅を始めています。でも、わたしのハーバーは冷たいです。三三年前の世界一周を、最初で最後にして、陸へ上がった青木さん。

「ヨットハーバー」の条件は別件資金が安く、誰かが築き始めること。外園のヨットハーバーのように、国際ヨットマンには無料で開放する。世界中で毎年、五百隻ほどのヨットが世界一周の旅を始めています。でも、わたしのハーバーは冷たいです。三三年前の世界一周を、最初で最後にして、陸へ上がった青木さん。

△ヨットハーバー 現在、わが国でヨットが盛んであるのは、約百カ所です。その数は五、六十年前に比べて、企業経営者もものは大半が民間。なかには入会費が百万円、年会費三千万円などという高級なものもある。